

OVER50 ボールルーム部門出場

松村健樹・栄組

1. OVER50BALLROOM へ再び参戦

OVER50BALLROOM はシニア選手権 (35 才以上) に加え、一昨年 2016 年に 50 才以上のクラスとして新たに競技種目に加えられました。OVER50 といえども正式な British Open Championship (全英オープン選手権) の 1 種目であり、すべて同様に開催され審査員も本戦のメンバーと全く同じです。一昨年、全英選手権に 50 才以上のカテゴリーが新たに加わると聞き、16 年ぶりに遠征して、準優勝することができました。とても名誉なことでした。昨年は仕事の関係で参戦できず、今年また再び挑戦することになりました。

2. OVER50BALLROOM (出場組数 222 組! 終了は深夜 2 時!)

一次予選	13:05	第5ラウンド	23:44
第2次予選	14:24	セミファイナル	0:01
第3ラウンド	18:49	ファイナル深夜	1:01
第4ラウンド	20:34		

OVER50BALLROOM 選手権は大会 2 日目の 5 月 27 日の日曜日に開催され、同日にはアマチュア UNDER21 ラテンと TEAM マッチがあります。

相変わらず長丁場の試合です。一昨年より大幅に参加組数が増えており、一昨年は 160 組ほどでしたが、今年は 222 組のエントリーでした。私達は昨年は参加しなかったためシードがつかず、一次予選からです。昨年年のファイナル組は夜の 3 次予選からですので、ずいぶんと有利ですが仕方ありません。4 ラウンドと 5 ラウンドの間にチームマッチが 3 時間入ります。観客は超満員で、アジアチームには日本のチャンピオン橋本組が出場しています。

私達は、今年は時差ぼけからか、4 次予選から、足が攣り始め、思うように足が動かなくなりました。トレーナーの西野さんがつきっきりでマッサージ等で調整して頂きましたが、やはり準決勝の最初のワルツで再び足が痙攣しました、途中で棄権しようと思ったほどでした。しかしパートナーが『誰もが望んでもこの場で踊ることができないのよ!』という叱咤激励の言葉を受け、はっと思い直し、渾身の思いで(でも顔はにこやかに!)準決勝を踊りました。

ファイナルには残れないと思っていましたが、



↑Final にて

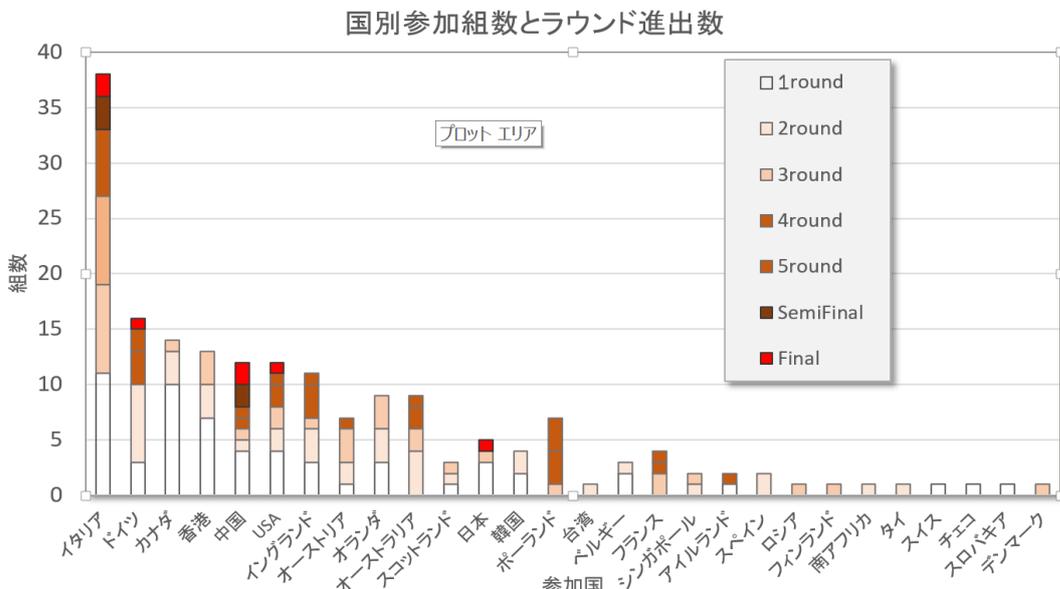
無事ファイナルに進むことができました。こんなに嬉しかったことはありません。全英選手権のセミファイナル、ファイナルはフルバンドのオーケストラ、マークスヒルトンの司会で審査員は歴代のチャンピオン、ファイナリスト。競技選手にとって最高の舞台です。セミファイナルはナショナルコール、(国別選手の紹介)があります。深夜一時ファイナルを踊り、結果は 4 位でした。

3. 出場国の動向、中国選手の台頭

一昨年からの変化は、やはりアジア系選手(特に中国選手)の台頭を OVER50 でも感じたことです。OVER50 では一昨年はほとんど中国の選手の出場はなかったのですが、今年は、中国選手が決勝に 2 組(アメリカ 1, イタリア 2, ドイツ 1, 中国 2, 日本 1)入りました。セミファイナルにも中国選手が 2 組入り、セミファイナル中 1/3 が中国選手です。中国選手は、50 才前半とみられ、明らかに競技に本格的に常時参

加していると見受けられる踊りをしておりました。

右図にOVER50BALLROOMの参加国別の出場数とラウンド進出組数を集計してグラフにしてみました。これからわかることは、イタリアが出場数が一番多く、あとは、ドイツ、カナダ、香港、中国、アメリカ、イギリスなどが並んでいます。国ごとのラウンド進出率ですが、別途点数をつけて集計してみたところやはり中国が一番レベルが高く、イタリア、ドイツが続きます。ポーランドもレベルが高いようです。シニア層まで中国の選手の強さが及んできた印象です。



って忘れられない競技会になりました。これまでにない最高にハードな試合になり、途中踊れなくなると思ったほどでしたが、それでもファイナルに残れたことは神様がここで苦しくても踊れと言ってくれたのだと思いました。自然と、これまで応援して頂いた周りの方々、感謝の気持ちが湧いてきました。成績こそ順位は落としましたが、納得はしています。このような最高の舞台で踊ることができたことはなんと私達は恵まれていることかと思えます。ただし、ダンスは芸術表現とは思いますが、アスリートの側面もあるので、体調管理、調整は必要と改めて反省致しました。全英選手権は、ダンス競技選手にとって世界最高の舞台の一つではないかと思えます。競技選手の皆様はチャンスがあれば是非一度は経験してください。

6. おわりに（反省、感謝、感謝）

歴史のある大会で再びファイナルに残れたことはたいへん嬉しく思います。今回の大会は私達にと

最後にありますが、派遣援助をしていただいたJALの皆様、ありがとうございました。ここでお礼を申し上げます。来年はシードが付き体力的にも有利であり、事情が許せば再挑戦したいと思っています。



←表彰式（歴代チャンピオンの前で）